

contents

トップメッセージ	2
東亜グループのCSR	4
コンプライアンスとリスクマネジメント	6
内部統制・情報セキュリティ	7
労働安全衛生マネジメントシステム	8
事業継続マネジメントシステム	9
人材育成と就業環境	10
ステークホルダーとのかかわり	12
品質／環境マネジメントシステム	13

座談会 生物多様性を考える 14

環境目的・目標と活動結果	18
環境に関する研究開発	19
環境に配慮した設計・施工技術	20
環境保全活動	23

ズームアップ 「黄鶴」への思い 24

環境データ	26
社会貢献とコミュニケーション	28
グループ会社	30
会社概要・お問い合わせ先・支店所在地	31

CSR報告書発行にあたって

■ 発行目的

社内外の利害関係者の皆様に対して企業の社会的活動等を開示することを目的として作成しました。

■ 編集方針

環境省「環境報告ガイドライン」(2007年度版)を参考にして作成しました。内容的にすべてを網羅することはできておりませんが、現状で可能な範囲で記載しています。

■ 対象範囲

東亜建設工業およびグループ会社を対象にしています。

■ 対象年度

2009年度(2009年4月1日～2010年3月31日)の活動を主に対象として取りまとめています。



持続的成長の実現をめざして

2008年秋の米国の金融危機に端を発した世界的な景気低迷は、徐々に落ち着きを取り戻し、新興国を中心に緩やかな回復基調をたどっています。

しかしながら、わが国経済、とくに国内建設市場においては、建設投資の「選択と集中」による一部のプロジェクト構想はあるものの、公共投資は依然として漸減傾向にあり、また、民間投資の先行きの不透明感も解消されていないことから、建設業界を取り巻く経営環境は厳しさを増すものと思われます。

このような状況のなか、当社グループは、建設市場の縮小という厳しい経営環境下においても経営基盤の強化を図るべく、新たに「新中期経営計画」(2010年4月～2013年3月)を策定し、持続的成長の実現をめざして、鋭意推進しています。

この新中期経営計画では、建設市場の量と質の変化に迅速に対応するため、当社が長年培ってきた経験と実績に基づいた技術力、組織力、個人の力を結集し、競争力・収益力のある強靱な経営体質を確立していきます。さらに、新中期経営計画に掲げる事業目標の達成はもとより、社会貢献、環境保全に向けた取り組みを強化するとともに、安全・安心に対する意識の醸成、コンプライアンス意識の高揚など、CSR活動の推進に努めていきます。

経営理念に込められたCSRの精神

当社は、経営理念として「社是」「三則」を掲げています。

これは1981年6月に定めたもので、「社是」は経営を行なっていくうえでの根本的な思想を示し、「三則」は経

「東亜の精神」あらたに

営の基本方針を示しています。いかなる時にも進むべき道を示す道標として、役職員の全員が共有しています。

社是

高い技術をもって、社業の発展を図り、
健全な経営により社会的責任を果たす

三則

1. 着実な計画経営により競争に打ち勝つ
2. 誠実な施工で永い信用を築く
3. 個人の能力を伸ばし組織の力を生かす

この「社是」「三則」に込められた思いは、今まで脈々と受け継がれている「東亜の精神」のようなものなのかもしれません。

「社是」制定時の社員向けメッセージには、「建設会社として立派な仕事を行なうことにより、社会の期待に応え、従業員の生活を保障し、株主の出資に報い、関係先の信頼を裏切らない。」また、「環境あるいは住民問題、安全、公共道德等に十分気を配り、細心の注意をもって仕事にあたる。」と記されています。

この先代から受け継がれた東亜の精神を、社内で共有し実践していくこと、そして、次の世代に伝えることが当社のCSRの根幹であると考えています。

生物多様性の意識の醸成

2010年は、「国際生物多様性年」にあたり、10月には名古屋で、「生物多様性条約第10回締約国会議」(COP10)が開催されます。

生物多様性の保全、持続可能な利用など、生物多様性条約が果たす役割に対する認識がさらに高まる年になるものと思われます。

当社では2010年7月、「東亜建設工業 生物多様性行動指針」を定めました。当社はこれまで社会基盤の整備に携わるさまざまな仕事のなかで、自然の恵みやそれを支える多様な生物の営みを実感してきました。こ

れらの経験とこれまで磨いてきた知恵と技術を調和させ、生物多様性の恩恵を受ける一員として、未来にこの恵みを伝えていくという理念に基づいたものです。

日頃より、社員一人ひとりの心のなかに育まれていくものではありませんが、行動指針として定めることで、さらに高い意識を醸成し、多様な生物の保全に配慮した事業活動を行なっていきます。

CO₂排出抑制への取組み

当社は建設業3団体^(※)が定めた「建設業の環境自主行動計画」のもと、地球温暖化、建設副産物、生態系保全、有害物質・化学物質への対策を実施しています。

われわれ建設業界は、社会資本整備に携わる一方で、関連する区域の環境保全に努める責務を負っています。なかでも地球温暖化対策としてのCO₂排出抑制は課題の一つであり、当社も2012年度までに原単位で1990年度比13%削減を事業目標としています。

2010年春、13年ぶりに建造した深層混合処理船「黄鶴^{こうかく}」は、当社の事業の柱である海上土木のフラッグシップとして大きな戦力になると同時に、施工段階でのCO₂排出抑制を実現した、環境配慮型の次世代作業船です。

作業船のみならず、環境に配慮した設計・施工技術、研究開発はこれからの事業活動のなかでさらに比重が高まってくるものと思われます。低炭素社会実現に向けて、これまで以上にCO₂排出抑制への取組みを強化していきます。

(※) 建設業3団体
社団法人日本建設業団体連合会、社団法人日本土木工業協会、社団法人建築業協会

本報告書は、当社グループのCSRに関する2009年度の活動実績と2010年度の活動目標をまとめたものです。ご一読いただき、皆様から忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長

松尾正臣